

CULTURAL PROPERTY

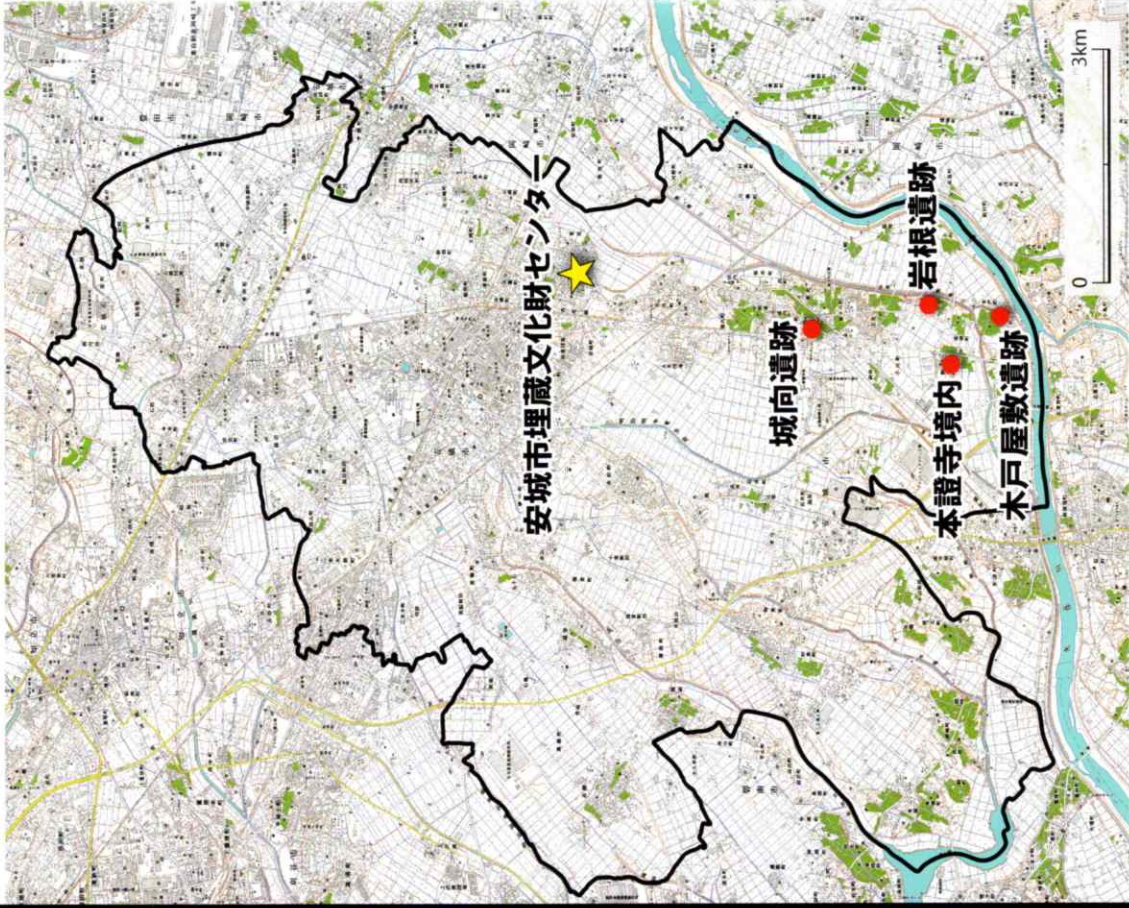
安

城市には、現在確認されているだけでも250カ所以上の遺跡が残されていることをご存じでしょうか？

遺跡は、先人たちが辿ってきた郷土の歴史を知る上で大変貴重な財産であるため、後世に残していくことが最も望ましいですが、宅地造成や道路整備など、私たちの生活の中で、やむを得ず壊されてしまうことも少なくありません。

そこで安城市では、開発行為などによって遺跡が壊されてしまう前に、先人たちが残したものを写真や図面で記録・保存するための「発掘調査」を行っています。

令和4年度は、発掘調査11件、試掘・確認調査21件を行いました。これらは、安城市の歴史を紐解く貴重な手掛かりとなります。発掘調査を通して、私たちの先人の足跡を知って頂ければ幸いです。



EXCAVATION

安城市埋蔵文化財センター
〒446-0026 安城市安城町城堀30番地
TEL 0566-77-4477 FAX 0566-77-6600

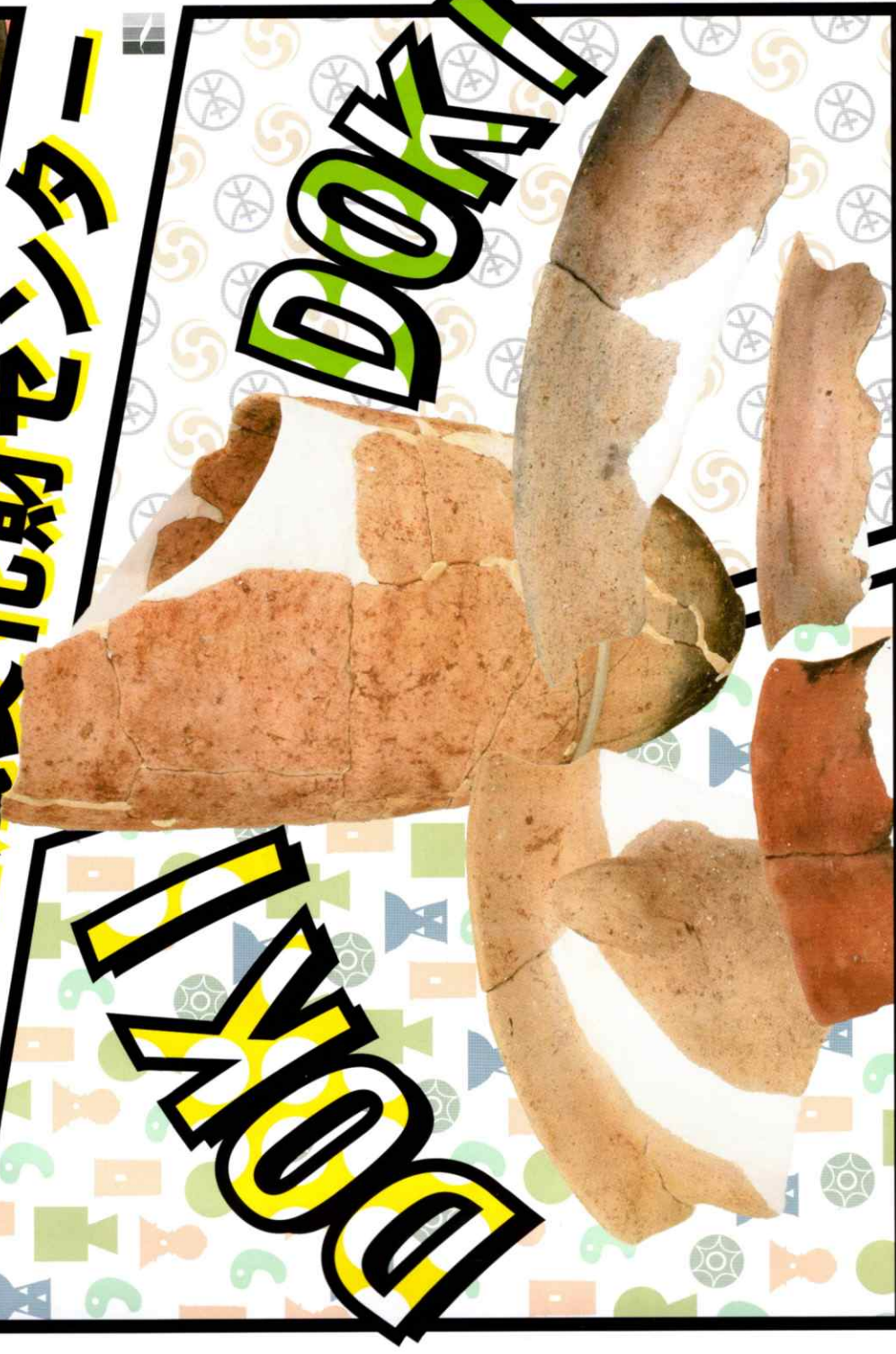
令和4年度

市内遺跡発掘調査報告展



安城市埋蔵文化財センター

BOOK



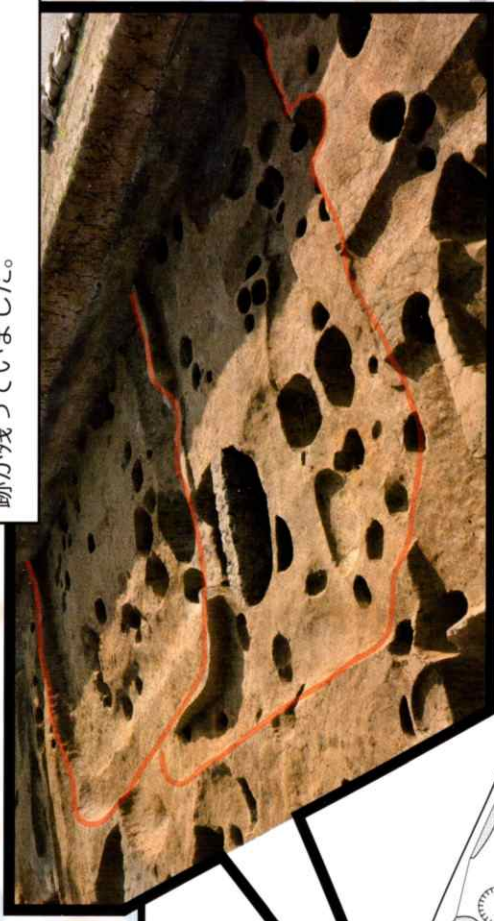
城向遺跡 (桜井町)

調査期間：令和4年3月1日～5月1日

城向遺跡は、桜井松平家の居城であった桜井城跡の西に広がる集落跡です。これまでの発掘調査で、古代の集落跡、戦国期の屋敷地とみられる遺構・遺物が数多く見つかっています。今回の調査は、集合住宅建設に伴い実施しました。調査の結果、古代の竪穴建物跡、中世の溝と井戸などが見つかりました。さらに、江戸時代以降の井戸や耕作に利用されたとみられる溝なども複数見つかり、古代より現代まで、この地で長らく人々の生活が営まれてきたことがわかりました。



出土遺物 (中世)
鎌倉時代の山茶碗や鍋、常滑窯産の壺などが出土しました。



完掘／竪穴建物跡 (北東から撮影)
古代の竪穴建物跡が2棟、一部重なって検出されました。北側が古く、南側が新しい建物です。どちらも壁溝、支柱穴、カマド跡が残っていました。



出土遺物 (幕末以降)
陶磁器。現代の碗皿類と似ています。

出土遺物 (古代)
土師器と須恵器。土師器は調理具、須恵器は食器。

古代の竪穴建物跡
中世の溝、井戸
江戸時代以降の溝、井戸
未掘

▲遺構平面測量図

岩根遺跡 (小川町)

調査期間：令和4年6月1日～9日、7月26日～8月18日

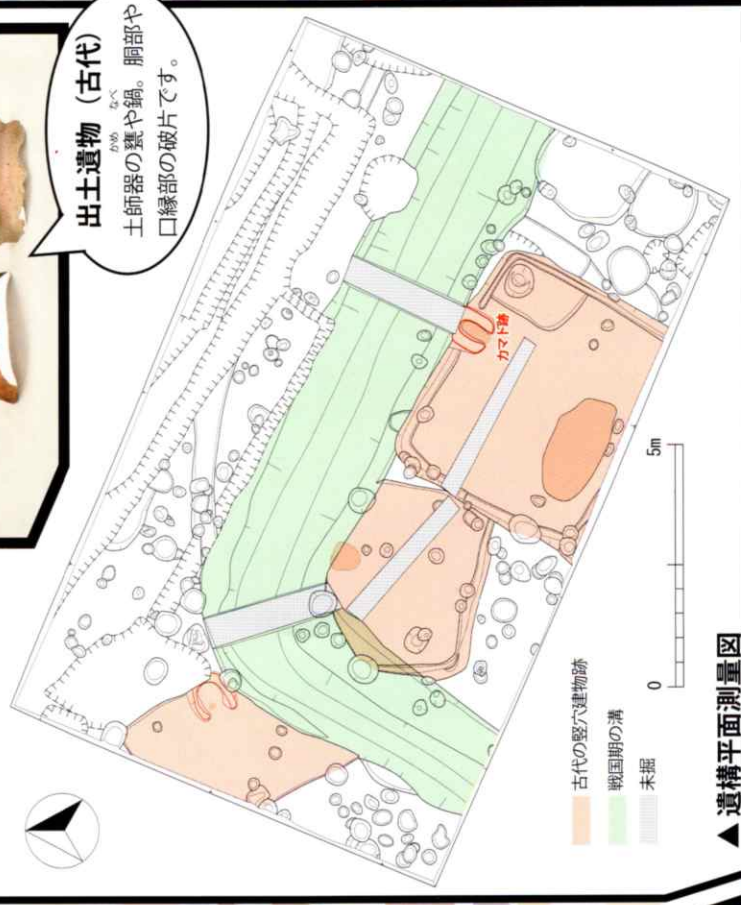
岩根遺跡は、寺領院寺跡 (寺領町) の北、岩根城跡の周辺に広がる古代・中世の集落跡です。令和4年度は、岩根遺跡で3件の発掘調査を実施しました。いずれも個人住宅建設に伴う調査です。どの調査でも、古代の竪穴建物跡を中心に、古代・中世の柱穴や溝を確認しました。竪穴建物跡には、カマドの痕跡が良く残るものもありました。カマド跡からは、古代土師器の甕 (調理具) の破片や炭化物、焼土が多く出土しました。

岩根遺跡がある鹿乗川に近い小川町一帯や南の寺領町などには、古代・中世の集落が広がっていたことが年々明らかになってきています。

出土遺物 (中世)
土器や施釉陶器。皿や碗の破片です。



▲竪穴建物イメージ図



▲遺構平面測量図

カマド跡
竪穴建物に付属します。炭化物や焼土、調理に使われた土器片が埋まっています。市内には、これほど良い形で残存しているカマド跡は少ないです。



完掘 (東から撮影)

古代には、竪穴建物が建つ集落だったようです。戦国期には、溝で土地を区画していたようです。



出土遺物 (古代)
土師器の甕や鍋。胴部や口縁部の破片です。



いわねいせき

下懸遺跡
加美遺跡
五反田遺跡
岩根遺跡
岩根城跡
岩根前遺跡
寺領院寺跡
惣作遺跡

山ノ寺遺跡
もも塚古墳
桜井戸跡
城阿原遺跡
桜井城跡

塔之元遺跡

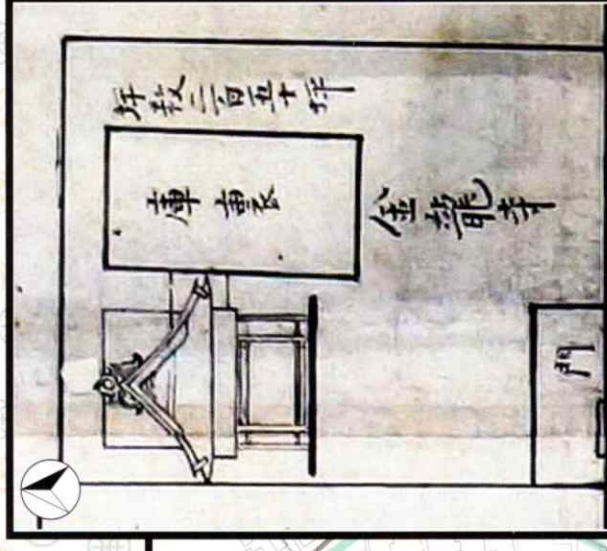
鹿乗川
小川橋

本證寺境内 (野寺町)

調査期間：令和5年3月21日～6月上旬

本證寺は、鎌倉時代に開かれたとされる、真宗寺院の名刹です。建造物は江戸時代の姿をとり、また地下には中世以来の堀などの遺構が良好に残ることから、「本證寺境内」として国史跡に指定されています。

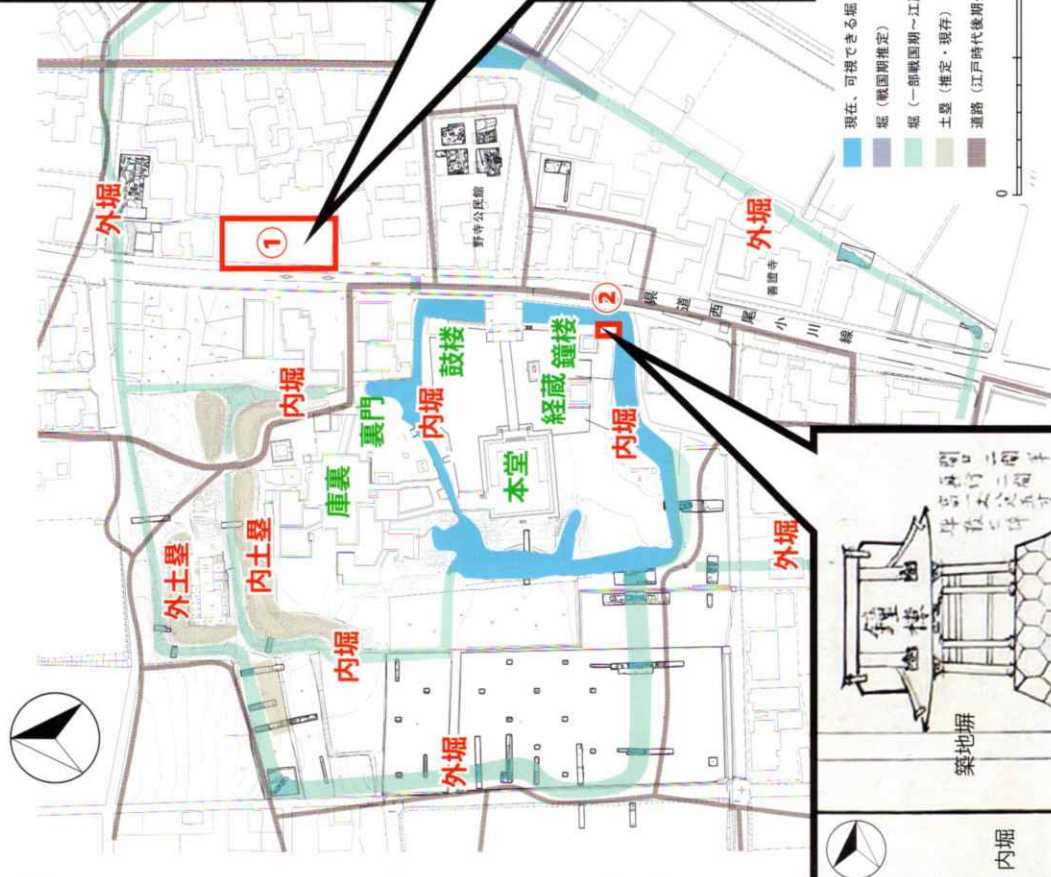
本證寺境内では、史跡整備のため発掘調査を継続的に実施しています。今回は、伽藍絵図(寛政年間)に描かれた角寺「金龍寺」推定地を調査しました。



▲本證寺伽藍絵図 金龍寺部分 (寛政年間 / 1789-1801)

本證寺伽藍絵図は、本證寺の寺内を描いた図です。本堂などの建造物や内堀・外堀などが詳しく描かれた、江戸時代の本證寺を表した重要な絵図です。金龍寺は、本證寺の寺内(※)にあった寺中(角寺)です。本證寺裏門から東に進んだ、現在の県道を跨いだ地にあつたと絵図から推定できます。本堂、庫裏、門があり、「坪数二百五十坪」と記されています。

(※) 本證寺境内は、二重の堀に囲まれた史跡です。内堀に囲まれた境内と、外堀に囲まれた領域「寺内」に分かれます。金龍寺がいつから存在したかは、まだ明らかではありませんが、明治時代には廃寺となったようです。



▲本證寺境内 内堀・外堀復原図

令和5年4月現在、境内の石垣と堀を修理しています。工事中に、未知の石列が発見されました。絵図に描かれた築地塀の基礎である可能性があつたため、記録調査を実施しました。

▲本證寺伽藍絵図 鐘楼・築地塀部分
絵図によれば、境内南側は築地塀に囲まれていたようです。築地塀は現存していません。

① 戦国期の溝 (南から撮影)

溝からは鍋の破片が多く出土し、寺内での生活の一端が垣間見えます。



出土遺物 (戦国期)
土器 (鍋類) や
天目茶碗の破片です。



これまでの本證寺境内の調査

平成11年(1999)以降、断続的に発掘調査を実施しています。令和5年(2023)3月までに、開発に伴う調査、史跡整備のための調査、合わせて22次の調査を実施しています。主に、本證寺を特徴づける遺構である内堀・外堀・土塁の調査です。それにより、内堀・外堀は、戦国期と江戸時代の2時期に利用されたことや、それぞれの時期で異なる位置を巡る部分があること等が明らかになってきています。また土塁については、戦国期に存在した証拠はみつかっていませんが、堀の埋土観察等から、戦国期に土塁(またはそれに類する盛土)があつたことが想定されています。今のところ、庫裏の北側に現存する土塁は、江戸時代の痕跡しかみつかっていません。



矢穴



② 石列北面 (北から撮影)

東端の石に、矢穴があります。矢穴とは、岩盤から石を切り出すときにつくノミと矢(クサビ)の痕跡です。



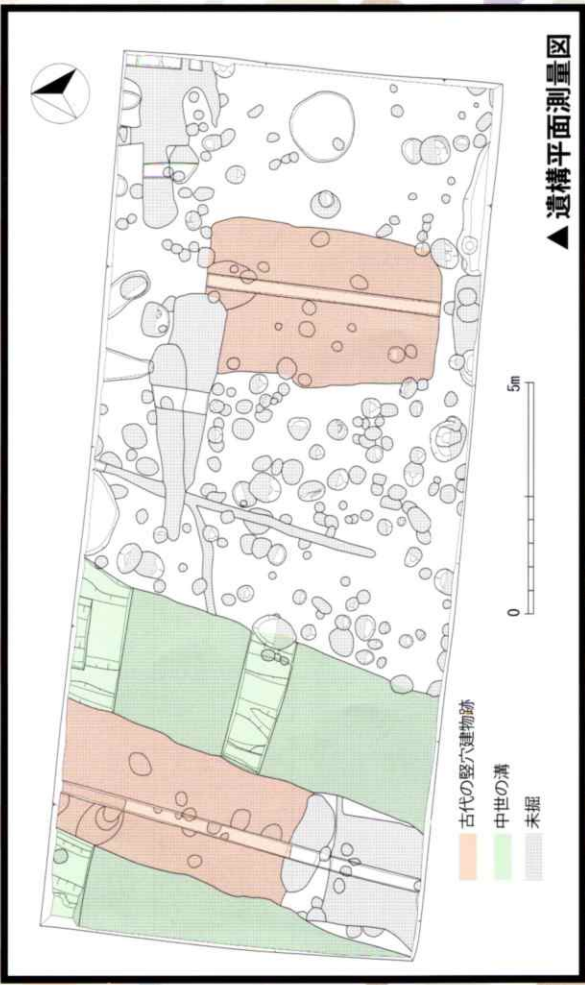
② 完掘 (西から撮影)

石列は、南北両面に面を形成しています。しかし、幅約60cmと狭く、列は長く続かないことから、まだ江戸時代の築地塀の基礎とは断定できません。

木戸屋敷遺跡 (木戸町)

調査期間：令和4年10月25日～28日

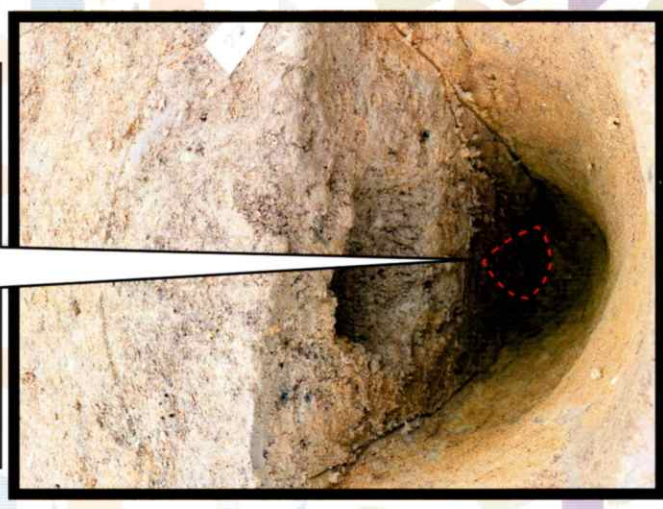
木戸屋敷遺跡は、安城松平家臣の成瀬直庸の居城とされる木戸城跡の北に広がる集落跡です。個人住宅建設に伴い調査を実施した結果、古代の竪穴建物跡、中世の溝や柱穴などが多く見つかりました。残存状態も良好で、遺物も須恵器や土師器、山茶碗などが多く出土しました。これまで木戸城跡周辺での発掘調査は、愛知県埋蔵文化財センターが平成12年(2000)に矢作川改修に伴い堤防側で実施した調査しかなく、城跡北側の碧海台地上で集落の痕跡を発見できた初めての調査となりました。古代から、木戸町域で人々が生活していたことが明らかとなりました。



完掘 (北東から撮影)
南側には、春日神社 (木戸城跡) が
あります。



柱穴
柱の一部が残っていました。通常柱は腐ってしまうので、このように残ることは珍しいです。



出土遺物は時代のものさし。何がどの時代の遺物？

古代 (奈良・平安時代)

遺跡から出土する遺物の大半は、土の中に長い期間埋まっています。腐食しない焼き物です。それぞれ、時代や地域、器種ごとに、形や色、材質、作り方などにある程度決まった特徴をもち、それがいづ、どこで作られたのかをあらわす指標になっています。

近年の発掘調査では、古代から近世、近代の遺物が多く出土しています。令和4年度の調査でも、そうした遺物が出土しました。



中世 (鎌倉・室町時代、戦国期)



近世 (江戸時代)、近代 (明治・大正期)



出土遺物 (古代)
土師器と須恵器。
土師器は甕類、
須恵器は蓋です。



出土遺物 (中世)
鎌倉時代の山茶碗。